

はじめに

平素より地域の感染症対策に御協力いただきありがとうございます。
医療機関向け情報には **医** を、一般施設向け情報には **全** をつけています。
原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。
全数報告：第37週～38週(9/8～9/21) 定点報告：第34～38週(8/18～9/21)

全数報告疾患情報

医

—— 市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

※定点報告疾患については、第34週～第38週のグラフを別添しております

2類感染症	37～38週	累計（年）
結核	6	90

5類感染症	37～38週	累計（年）
百日咳	8	147
梅毒	1	24
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	5

発生動向トピックス

TOPICS 1

感染性胃腸炎の集団発生報告がありました

医 全

市川保健所管内で今シーズン初の感染性胃腸炎疑いの集団発生事例が報告されました。

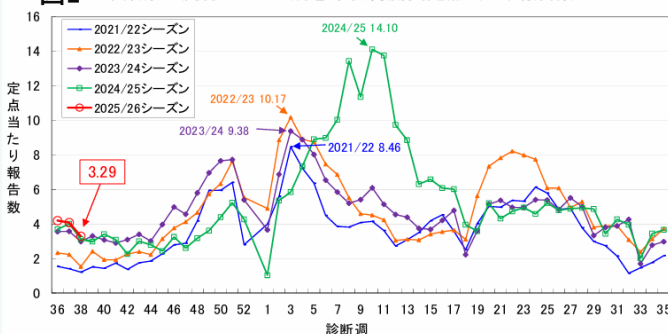
2025年第38週の県全体の定点当たり報告数は、前週の4.08人から減少して、3.29人となりました（図1）。

また、令和7年9月12日に、船橋市より、船橋市内の小学校において、ロタウイルスによる胃腸炎の集団感染があり報道発表がされました。

感染性胃腸炎とは、多種多様な原因により嘔吐や下痢といった症状が引き起こされる症候群です。乳幼児や高齢者を中心に広がりやすく、重症化することもある感染症です。冬場に流行のピークを迎えますが、例年9月後半から徐々に増加し始めます。流行の前に、感染性胃腸炎について正しい知識を持ち、予防と適切な対応を心がけましょう。

施設での発症者が累計10名以上となった場合等、「[社会福祉施設等における感染症発生時に係る報告について](#)」の要件に当てはまる場合は保健所まで御一報ください。

図1 千葉県の流行シーズン別感染性胃腸炎定点当たり報告数



報告基準

- 1) 同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる死亡者又は重篤患者が1週間に2名以上発生した場合
- 2) 同一の感染症若しくは食中毒の患者又はそれらが疑われる者が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合
- 3) 1)及び2)に該当しない場合であっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合

感染性胃腸炎

症状

- 嘔吐 ■下痢（水様便や血便の場合もあり）
- 腹痛 ■発熱 ■倦怠感 ■食欲不振
- 脱水症状（口の渇き、尿量の減少、意識の低下）

感染経路

- 経口感染
汚染された食品や水を摂取することで感染
- 接触感染
感染者の便や吐物に触れた手を介して口に入る
ドアノブ、手すり、タオルなどの共有物を介した感染
- 飛沫感染
感染者の嘔吐物から飛び散る微粒子を吸い込むことで感染

登園目安

- 嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
（保育所における感染症対策ガイドラインより）
- ※登園を再開した後も、ウイルスは便中に3週間以上排出されることがあるため、排便後やオムツ交換後の手洗いを徹底する

感染対策

- 石鹸と流水による手洗いの徹底
 - ・調理の前後 ・食事前
 - ・トイレの後 ・排せつケアの後
 - ・嘔吐物や便を処理した後
- 感染性廃棄物の適切な取り扱い
 - ・嘔吐物や便の処理時は、使い捨て手袋やマスクを着用
- 環境の消毒
 - ・吐物や便が付着した場所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒
 - ・高頻度接触面（ドアノブ、テーブル等）を定期的に消毒
- 健康観察の徹底
- 食品の衛生管理

保健所が感染拡大防止の観点からお伝えする事項として多いのが、**感染性廃棄物の取り扱い、手指衛生、消毒（環境について）、消毒薬の取り扱い**についてです。感染性廃棄物の取り扱いについて、特に嘔吐物や排泄物等は乾燥すると塵埃となって空气中を浮遊し感染原因になり得ます。感染性廃棄物は、トイレ内などに溜めずに複数回（2～3回/日）に分けて屋外の廃棄場所へ運ぶといった対応を御検討ください。そのほかの手指衛生や消毒等、施設内での感染対策を再確認し、今後の流行に備えましょう。

【参考】こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン（2023年5月一部改訂）」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/d557529d/20230401_policies_hoiku_15.pdf

【参考】JIHS「感染性胃腸炎」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/intestinal/010/intestinal-intro.html>

【参考】千葉県感染症情報センター「千葉県の感染性胃腸炎発生状況2025年第38週」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202538gastro.pdf>

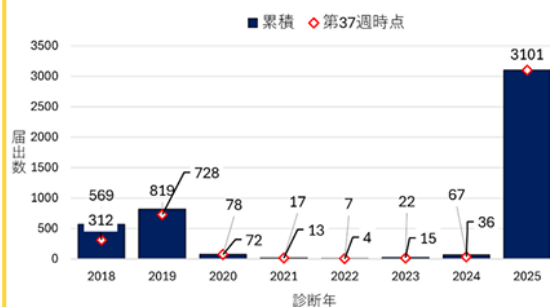
【参考】市川保健所「市川保健所感染症（感染性胃腸炎疑い）発生報告フォーム」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kf-ichikawa/kansensyo-hasseihoukoku/form.html>

千葉県では、2025年第37週に県内医療機関から49例の届出があり、2025年の累計は3,101例となりました（図1）。本年の累計届出数は全数把握対象疾患に変更となった2018年以降で最多であること、高水準で届出数が推移していることから、引き続き動向を注視しています。

百日咳は、百日咳菌によって引き起こされる呼吸器の感染症です。特に乳児は重症化するリスクが高いため、注意が必要です。

図1：2018年から2025年の県内の百日咳の診断年別届出数



感染症解説

百日咳

症状

症状は年齢によって幅広い

乳幼児：無呼吸発作、チアノーゼ、痙攣、呼吸停止 等
学童：連続的で激しい咳込み、咳込みによる嘔吐 等
大人：長引くしつこい咳 等

感染経路

飛沫感染 接触感染

出席停止期間

特有の咳が消失するまで 又は 5 日間の適正な抗生物質製剤による治療が終了するまで（学校保健安全法より）

感染対策

■予防接種（定期接種）

令和6年4月1日より、4種混合ワクチン(ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオ)とヒブワクチンが1つになった「5種混合ワクチン(DPT-IPV-Hib)」が開始されました。対象年齢は、生後2か月から7歳6か月未満で、計4回の接種を受けるものです

初回接種 生後2か月以上7か月未満に対して、3～8週間の間隔を置いて3回接種

追加接種 3回目の接種後6か月～18か月の間隔を置いて1回接種

■咳エチケット ■手洗い

【参考】千葉県感染症情報センター「2025年第36週」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/wr2536.pdf>

「長引いた 咳に結核 疑って 早い受診につなげよう」

結核の初期症状は長引く咳、痰、微熱、体のだるさなどが長く続くのも特徴です。特に高齢者では特徴的な症状が出ないこともあるため、気づかないうちに進行してしまうことがあります。結核は発症しても、早期に発見できれば、重症化を防げるだけではなく、家族や友人等への感染拡大を最小限にとどめることも出来ます。咳や痰が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

「手洗いマスク 習慣づけて 防ごう呼吸器感染症」

結核以外の呼吸器感染症にはインフルエンザや新型コロナウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。マスク着用を含む咳エチケットや手洗い・手指消毒、換気等の基本的な感染対策を心がけましょう。

【参考】千葉県「結核・呼吸器感染症予防週間」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kekaku/tbweek.html>

【参考】厚労省「結核」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou03/index.html

長引いた咳に結核 疑って 早い受診につなげよう

1年間で(2024年)
新登録患者数 10,051人
死亡者数(概数) 1,461人

早期発見 結核

せき・たんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

予防 呼吸器感染症

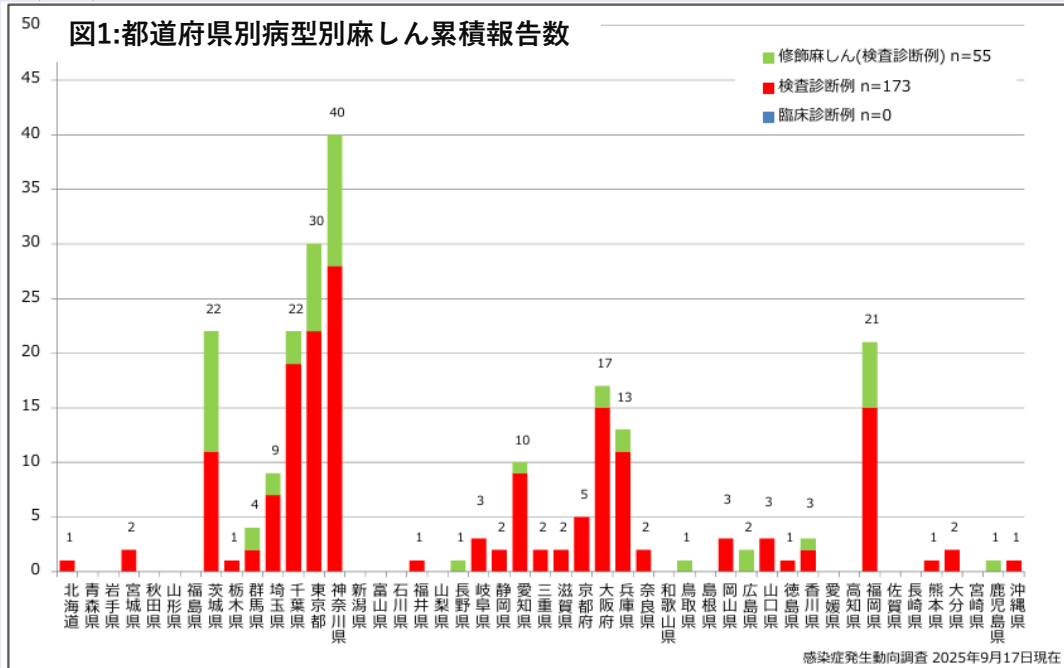
換気、手洗い・手指消毒などの基本的な感染対策が有効です。また、感染予防としてマスクの着用が効果的です。

防ごう呼吸器感染症

手洗いマスク 習慣づけて

インフルエンザ ウイルス感染症 細菌性肺炎 など

千葉県では、2025年第38週に届出はなく、2025年の累計は22例です。
全国では、2025年第37週に京都府で1例の届出があり、2025年の累計は228例となりました。(図1)。



【参考】千葉県感染症情報センター「千葉県の麻しん発生状況(2025年38週)」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202538measles.pdf>

【参考】JIHS「麻疹発生動向調査 2025年第37週」

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/meas25-37.pdf>

インフルエンザ感染症

—— 定点医療機関における感染者数の報告は増加傾向です

市川保健所管内インフルエンザ発生状況 (人)

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	3	0	0	0	0

※型非鑑別キット

(医療機関からの型報告なく不明な 7 例を除く)

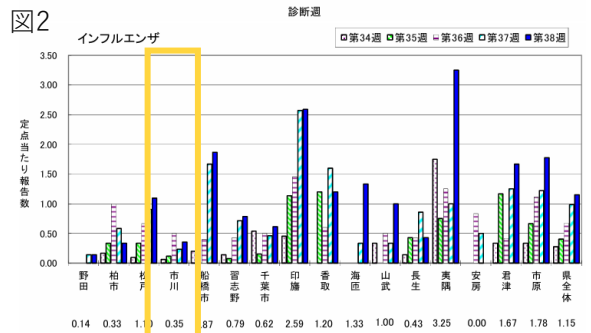
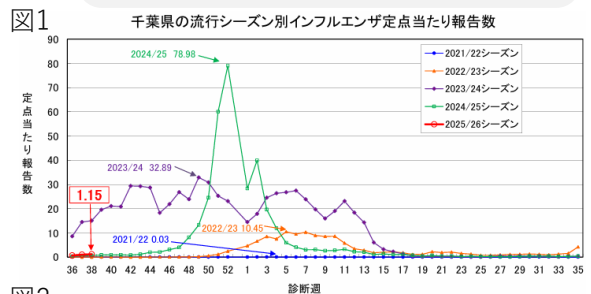
2025年第37週から第38週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめた表です

第38週の千葉県全体の定点当たり報告数は、1.15(人)でした(図1)。市川管内の報告数は、0.35(人)でした(図2)。

第38週に千葉県内で報告のあった例のうち、A型166例(93.3%)、B型3例(1.7%)であり、A型が多い状況です。

感染
対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける
- ⑥ワクチン接種



【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202538-2influenza.pdf>

【参考】厚生労働省：インフルエンザQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/QA2024.html

—— 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です

第38週の千葉県全体の定点当たり報告数は、6.68(人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、君津(12.17)、夷隅(10.00)、香取(9.20)保健所管内でした。

市川保健所管内の報告数は、前週から減少し、3.47(人)となっています(図2)。

管内の医療機関や高齢者施設においてコロナの集団発生報告数が増加しています。

高齢者や基礎疾患をお持ちの方は重症化リスクが高いため、一人ひとりが感染防止に努めることで、施設全体の安全を守ることにつながります。感染症対策を再確認し、全員で取り組んでいきましょう。

図1

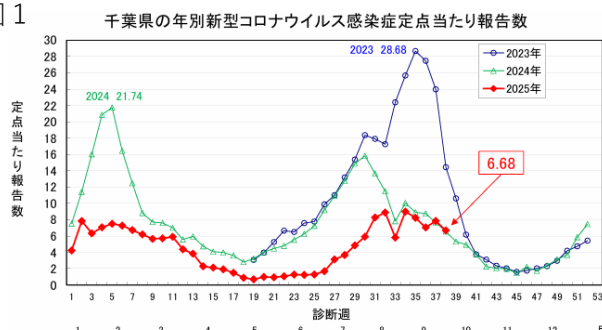
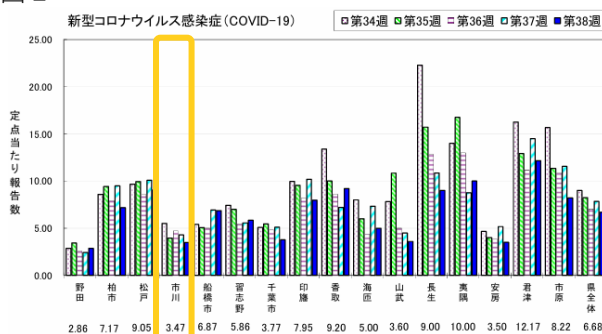


図2



【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202538covid19.pdf>

【参考】千葉県:新型コロナウイルス感染症について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/ncov/covid19-chiba-index.html>

感染
対策

インフルエンザを予防する方法と同様です

お知らせ

医 全

- ・【医療機関の皆様へ】1~4類感染症及び5類感染症の一部(麻しん・風しん・侵襲性髄膜炎菌感染症)の発生届を御提出いただく際は、発生届の御提出と併せて保健所までお電話をお願いいたします。
※閉庁日にお電話いただいた場合、「千葉県保健所夜間休日受付センター」の連絡先のアナウンスが流れますので、当該センターに御連絡をお願いいたします。
- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまで御連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることを御了承ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任において御利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

配信元

千葉県市川健康福祉センター
(市川保健所)
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp

市川保健所管内の感染症発生動向（最近5週）

● 管内 ▲ 県全体 — 警報基準値 ---- 解除基準値

マイコプラズマ肺炎は基幹定点のみ COVID-19、急性呼吸器感染症（ARI）、RSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎は警報基準値等の設定なし。

